



答 辞

四季の移ろいが変わりゆく中で、暖かな春の日差しを感じる季節となりました。

本日は私達卒業生のために、このような盛大な式典を挙げていただき、誠にありがとうございます。そして、お忙しい中ご列席いただいた船田理事長並びに渡邊学長、ご来賓の皆様、卒業生一同、心より御礼申し上げます。また、皆様から貴重なお言葉を賜り、我々は身の引き締まる思いとなりました。

月日の流れは速いもので、作新学院大学の一員としての一步を踏み出してから4年が経ちました。入学当初は授業形態が混在しており、戸惑うこともありましたが、友人や先生方の支えもあり、充実した学生生活を送ることができました。学業、部活動、ボランティア活動など励み、各々の道を歩んできました。ここに至るまでの道のりは決して簡単なものではありませんでしたが、私達はそれを乗り越えました。

本学で過ごした学生生活は、知識や経験を身に付けるに留まらず、学内外で多くの人と関わる機会となりました。授業を受けて未知を既知にすることや実習で児童と関わることは時に楽しく、時に難しさがありました。そんな時に相談に応じて下さった先生方・友人たちのおかげでやり遂げることができました。また、大学ではまちづくり活動に参加できました。そこで多くの価値観や考えに触れ合えました。そうした機会に恵まれたのも、ひとえに作新学院大学がこれまで築き上げた信頼のおかげだと考えております。皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。

私達は学んだ知識や経験を基に考えられるようになりました。一方で学習したことは今ある自分の知識で理解しただけなのかもしれません。先生方が本当に伝えたかったことのすべてを理解できていないのかもしれません。先生方がこれまで歩んでこられた人生から得た知識を本当の意味で理解するためにも「学び続けること・自分で考えること・自ら決断すること」の3つは心に留めて邁進してまいります。

卒業という節目を迎えて今、思うことは、「時間は有限、使い方は無限」という言葉です。人生には限りがあります。何かをしようがしまいが、その選択をした時点で時は流れます。過ぎてしまうと二度と戻れないのが時間の厄介なところです。だから、今できることは今やるべきです。全ての選択には後悔が付きまとうものですが、その後悔をしっかり受け入れるためには自分で決断するしかありません。努力すれば何にでもなれるとは思いませんが、努力に見合った成果しか得られません。上を向き励むか、下を向き怠るか、良くも悪くも人は向いた方に歩みます。しっかりと目線を定めて、自分で考え決断して努力することで有意義な時間になりたいと思います。そうして、動きを止めず学び・考え、広く「しんか」を追い求めます。

本日、皆様からしたら未熟な私達は卒業と言う節目を迎えます。学問の高みを目指し学徒を続ける者、就職する者、各々の目標に向け次なる一步を踏み出します。今後困難に出くわすこともあると思われませんが、これまでと同様に努力して、臆することなく立ち向かうことを誓います。

終わりに、今日まで私たちをご指導してくださいました諸先生方、学生の支援に尽力してくださいました職員の皆様、このように恵まれた学習の場を与えてくださいました皆様、今日まで成長を見守り続けてくれた家族に感謝の意を表明したいと思います。そして、作新学院大学の益々の発展を祈念して、答辞とさせていただきます。

令和七年三月十六日
作新学院大学 人間文化学部
卒業生代表 手塚 朋希